

8 消防費

1 消防費 1 常備消防費

[担当：消防本部 総務課] P. 325

0501 消防総務事務に要する経費 21,537,524 円 (25,961,898 円)

[その他 245,700 円 一財 21,291,824 円]

* 特財内訳

[手数料：危険物許認可手数料 245,700 円]

○ 目的

消防行政事務の適正化と消防活動全般の万全を図る。

○ 内容

(1) 火災状況について

平成 28 年及び平成 27 年の火災における種別ごとの件数、焼損面積及び損害額は、下表のとおりである。

火災種別		建物	車両	林野	その他	計
件数	H28	13 件	2 件	0 件	3 件	18 件
	H27	12 件	3 件	0 件	6 件	21 件
焼損面積	H28	642.32 m ²		0 m ²	27.00 m ²	
	H27	246.09 m ²		0 m ²	1,282.50 m ²	
損害額	H28	89,398 千円	77 千円	0 千円	40 千円	89,515 千円
	H27	14,233 千円	228 千円	0 千円	520 千円	14,981 千円

(2) 救助活動状況について

平成 28 年及び平成 27 年の救助活動内訳は、下表のとおりである。

事故別		交通事故	火災	水難事故	機械事故	その他	計
件数	H28	16 件	10 件	3 件	0 件	18 件	47 件
	H27	19 件	9 件	3 件	2 件	17 件	50 件
救助人員	H28	11 人	0 人	0 人	0 人	7 人	18 人
	H27	12 人	1 人	1 人	1 人	5 人	20 人

○ 効果

消防行政事務の適正な執行と併せて、効率的な消防活動を展開することができた。

[担当：消防本部 総務課] P. 327

2001 職員研修に要する経費 2,514,347 円 (2,981,170 円)

[その他 472,650 円 一財 2,041,697 円]

* 特財内訳

[諸収入：研修入校本人負担分 472,650 円]

○ 目的

複雑多様化する各種の災害、救急救助業務及び火災予防業務等の高度化に対応するため、専門的な知識及び技術の習得を図る。

○ 内容

茨城県立消防学校における教育、及び各種研修会等に職員を派遣した。

・ 県立消防学校初任科入校	6名
・ 〃 救急科入校	3名
・ 〃 救助科入校	2名
・ 〃 警防科入校	2名
・ 〃 特殊災害科入校	1名
・ 〃 火災調査科入校	2名
・ 〃 水難救助課程入校	1名

○ 効果

消防職員の教育訓練機関である県立消防学校への入校により、消防に関する専門的な知識や技術を取得することができた。また、職員の職務意識が高揚し、複雑多様化する災害に迅速・的確かつ効果的に対応するための能力の向上が図られた。

[担当：消防本部 総務課] P. 329

2201 消防庁舎の管理運営に要する経費 31,918,848円 (88,503,236円)

[その他 8,224,000円 一財 23,694,848円]

* 特財内訳

[繰入金：公共施設整備基金繰入金 8,000,000円]

[諸収入：いばらき指令センター基地局電気使用料 224,000円]

○ 目的

災害時の拠点施設である消防庁舎の適正な管理運営を図る。

○ 内容

取手消防署の老朽化したトイレの改修工事、女性用トイレ増設工事及びホースタワーの修繕を行った。また、各種業務委託により消防施設の適正な維持管理に努め、職場環境の充実を図った。

・ 消防庁舎	取手市消防本部	取手消防署
		戸頭消防署
		吉田消防署
		櫛木消防署
		宮和田出張所

○ 効果

取手消防署のトイレ改修や女性用トイレ増設により、職員をはじめ、来庁する住民の方々にも快適に庁舎を利用していただくことができた。また、庁舎清掃業務委託等により、全消防庁舎が適正に管理され、消防防災の拠点としての機能が確保できた。

[担当：消防本部 警防課] P. 329

2301 消防自動車等の維持管理に要する経費 11,950,189 円 (12,284,192 円)

[一財 11,950,189 円]

○ 目的

消防自動車等の円滑かつ適正な運用を図る。

○ 内容

消防自動車の配置状況は、下表のとおりである。(H29. 3. 31 現在)

署名	車両名	台数
取手消防署	取手1号車(化学車)	取手指令1号車
	取手2号車(ポンプ車)	取手広報1号車
	取手救助(救助工作車)	査察指導車
	取手梯子(梯子車)	
	取手重機搬送(重機搬送車)	
	取手指揮1号車	
	ボートトレーラー(3台)	
戸頭消防署	戸頭1号車(水槽付きポンプ車) 積載車(ポンプ積載車)	4
	戸頭2号車(ポンプ車) 戸頭指令1号車	
吉田消防署	吉田1号車(水槽付きポンプ車) 吉田指令1号車	4
	吉田2号車(ポンプ車) 吉田搬送(資機材搬送車)	
梶木消防署	梶木1号車(水槽付きポンプ車) 梶木2号車(ポンプ車)	5
	梶木指令1号車 予備車(化学車)	
	ボートトレーラー(1台)	
計		25

○ 効果

消防業務の根幹をなす消防自動車等を適正に維持・管理することにより、消防活動の円滑化が図られた。

[担当：消防本部 警防課] P. 331

2501 救急救命士の養成に要する経費 3,187,720 円 (3,298,934 円)

[その他 78,320 円 一財 3,109,400 円]

* 特財内訳

[諸収入：研修入校本人負担分 78,320 円]

○ 目的

各消防署の救急隊に常時1名以上の救急救命士を配置し、高度な救命処置を行い救命率の向上を図るため、救急救命士を養成する。

○ 内容

救急救命士の養成 1名

(1)期間 平成28年4月4日(月)～平成28年9月30日(金)

(2)場所 東京都八王子市南大沢4-5 救急救命東京研修所

(3)経費 入校負担金 2,051,000円
旅費 71,760円
図書及び受験料等 135,740円

○ 効果

救急体制の充実が図られた。

救急救命士34名の配置状況は下表のとおりである。(H29.3.31現在)

署名	消防本部	取手署	戸頭署	吉田署	桐木署
救命士数	3名	8名	6名	6名	11名

[担当：消防本部 総務課] P.331

3401 いばらき消防指令センターに要する経費 19,768,100円

[その他 4,660円 一財 19,763,440円]

* 特財内訳

[諸収入：いばらき指令センター設備保険料受入金 4,660円]

○ 目的

県内20消防本部33市町で消防指令業務を共同で行う「いばらき消防指令センター」の運用により、高度な消防指令体制が構築され、的確で迅速な消防・救急業務や関係機関等への情報提供が可能となる。

○ 内容

茨城消防救急無線・指令センター運営協議会の取手市負担金等
取手市負担金 19,614,400円

○ 効果

近年の大規模災害の頻発により消防防災力の強化が求められている状況のなか、災害情報の一元化による迅速で的確な災害対応の実現及び、高機能な通信システムによる消防業務の高度化が図られた。

1 消防費 2 救急業務費

[担当：消防本部 警防課] P.333

0501 救急業務に要する経費 6,080,302円(7,102,783円)

[一財 6,080,302円]

○ 目的

救急資機材の適正な管理と的確な救急業務の遂行を図る。

○ 内容

平成28年及び平成27年の救急件数と搬送人員は、下表のとおりである。

事故別		急病	交通事故	一般負傷	その他	計
件 数	H28	3,016 件	360 件	732 件	476 件	4,584 件
	H27	2,915 件	392 件	744 件	441 件	4,492 件
搬送人員	H28	2,774 人	382 人	691 人	385 人	4,232 人
	H27	2,679 人	412 人	695 人	375 人	4,161 人

○ 効果

救急隊員の病院実習等を含めた教育訓練の実施により救急技能の向上が図られ、充実した救急業務体制を確立することができた。

[担当：消防本部 警防課] P.333

2001 救急自動車の維持管理に要する経費 5,741,726 円 (5,747,865 円)

[一財 5,741,726 円]

○ 目的

救急自動車の円滑かつ適正な運用を図る。

○ 内容

救急自動車の配置状況は、下表のとおりである。(H29.3.31 現在)

署 名	車 両 名	台数
取手消防署	救急取手 1 号車 (高規格救急車)	2
	救急取手 2 号車 (高規格救急車) 予備車	
戸頭消防署	救急戸頭 1 号車 (高規格救急車)	1
吉田消防署	救急吉田 1 号車 (高規格救急車)	1
櫛木消防署	救急櫛木 1 号車 (高規格救急車)	1
宮和田出張所	救急櫛木 2 号車 (高規格救急車)	1
計		6

○ 効果

救急自動車の維持管理が適正になされ、救急活動が円滑に図られた。

1 消防費 3 非常備消防費

[担当：消防本部 総務課] P.335

2001 消防団員に要する経費 52,789,274 円 (49,243,992 円)

[国・県 571,200 円 その他 11,823,648 円 一財 40,394,426 円]

* 特財内訳

[県補：消防団充実強化推進事業費補助金 571,200 円]

[諸収入：消防団員退職報償金受入金 11,692,000 円]

[諸収入：消防団福祉共済返戻金 131,648 円]

○ 目的

消防団員の処遇及び福利厚生の実を充実を図る。

○ 内容

消防団員全員へ身体保護のため救助用半長靴を貸与する。また、消防団員の報酬と消防団員退職報償負担金及び消防団員公務災害補償等共済負担金等の各種負担金の支出。

消防団員の定数 649人 実数 554人（平成29年3月31日現在）

○ 効果

個人装備の充実により、災害活動時の安全が図られた。また、消防団の諸活動をはじめ地域における自主活動にも積極的に参加する等、地域住民との信頼関係を築くことができた。

[担当：消防本部 総務課] P.335

2101 消防団の運営に要する経費 41,416,344円（36,526,251円）

[地方債 16,500,000円 その他 3,900,000円 一財 21,016,344円]

* 特財内訳

[市債：消防防災設備整備事業債 17,379,720円×1/2×100%≒8,600,000円]

[市債：消防防災設備整備事業債

(17,379,720円－8,600,000円)×90%≒7,900,000円]

[繰入金：公共施設整備基金繰入金 3,900,000円]

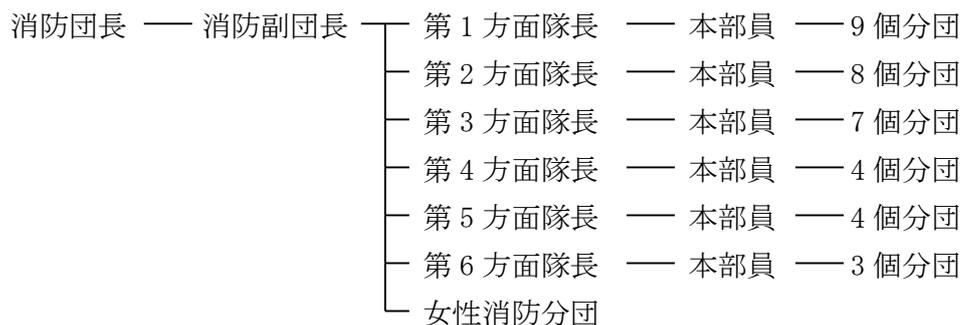
○ 目的

消防団の円滑な運営と消防施設等の整備及び適正な維持管理を図る。

○ 内容

第11分団・第17分団車庫の改築工事を実施した。また、第18分団・第25分団小型動力ポンプ付積載車の更新整備など、消防施設等を整備し適正に維持管理を行った。

平成28年度の消防団組織は、下図のとおりである。



○ 効果

消防施設等の更新整備など適正な維持管理により、消防団活動環境の強化が図られた。

1 消防費 5 消防施設費

[担当：消防本部 警防課] P.337

2001 消防水利の整備に要する経費 11,122,800 円 (9,373,440 円)

〈8,530,800 円〉※〈 〉は、うち27年度繰越分

[地方債 8,500,000 円 (8,500,000 円) 一財 2,622,800 円]

* 特財内訳

[市債：緊急防災・減災事業債 〈8,530,800 円×100%≒8,500,000 円〉]

○ 目的

消防水利の基準及び消防水利整備計画に基づき、消防水利の充実強化を図る。

○ 内容

上高井地区 耐震性貯水槽 60 m³新設

○ 効果

耐震性貯水槽の新設により、地域に於ける消防水利の充実強化が図られた。

[担当：消防本部 警防課] P.339

2201 消防施設の整備に要する経費 212,944,280 円 (63,829,890 円)

[国・県 50,600,000 円 地方債 146,000,000 円 一財 16,344,280 円]

* 特財内訳

[国補：緊急消防援助隊設備整備費補助金

基準額 101,200,000 円×1/2=50,600,000 円]

[市債：消防防災設備整備事業債

(101,200,000 円－50,600,000 円)×90%≒45,500,000 円]

[市債：消防防災設備整備事業債 111,744,280 円×90%≒100,500,000 円]

○ 目的

梯子消防自動車を更新し、消防体制の充実強化を図る。

○ 内容

平成3年度に取手消防署へ配備された梯子消防自動車を更新した。

○ 効果

最新の機能を搭載した梯子消防自動車の更新により、消防体制の充実強化が図られ、高層建物等の災害対応に万全を期すことができた。